

私には愛をつかむ手がない!
私には夢を追う足がない!

安らぎを求める魂の叫び!
男は人生に、
『さようなら』を言った……

いのち
この生命
《カラー作品》
誰のもの

リチャード・ドレイファス

ジョン・カサベタス / クリスティン・ラーティ

ボブ・バラバン / ケネス・マクミラン

■製作 ローレンス・P・バックマン

■監督 ジョン・バダム

■脚色 ブライアン・クラーク / レジナルド・ローズ

■原作 ブライアン・クラーク (原作邦訳 河出書房新社)

■音楽 アーサー・B・ルビンスタイン

MGM映画  CIC配給 



WHOSE
LIFE
IS IT
ANYWAY?



いのち この生命誰のもの

■スタッフ

監督……………ジョン・バダム
脚色……………ブライアン・クラーク
……………レジナルド・ローズ
原作……………ブライアン・クラーク
製作……………ローレンス・P・バックマン
撮影……………マリオ・トッシ
美術……………ジーン・キャラハン
音楽……………アーサー・B・ルビンスタイン

■キャスト

ケン……………リチャード・ドレイファス
エマーソン医師……………ジョン・カサベテス
スコット女医……………クリスティン・ラーティ
ヒル弁護士……………ボブ・バラバン
ワイラー判事……………ケネス・マクミラン
メリー・ジョー……………カーキ・ハンター
ジョン……………トーマス・カーター
ロドリゲス婦長……………アルバ・オームズ



*僕はもう…人間ではない

白いカバーに覆われた病院のベッド。そこに横たわる一人の男。そして叫び始める。「この生命は一体誰のものなのか？」と—ケン・ハリソン、30過ぎの若い新進の彫刻家であった。彼のその眼とその肌で感じた溢れるばかりの感性は、魔術のように動く彼の指先によって見事な作品の創作に生まれ変わっていく。独創性に富んだ作品の数々。人々はこの若い作家の将来に期待を寄せていた。彼にはバレリーナである婚約者がいた。仕事でも私生活でも充実と幸せに満ちた日々を過ごしていた。だが思いがけない運命は、凶器のように彼に襲いかかった。突然の交通事故！鉄の塊りの下から救い出され病院へ運ばれた彼を待っていたのは、首から下の肉体的機能を奪われるという四肢マヒ。指が、腕が、足が、体が動かない！動かせない！何も感じない！ショックと絶望が恐怖の悪魔となって彼を突き刺す。肉体的には植物人間化だが、頭脳のみが正常な機能を持つという状態は真に生地獄であった。

*枕を涙で濡らしても、そのしづくをぬぐう手はもう動かない……

苦悩と孤独と絶望の中にあつてハリソンの冷静な知性はやがてある結論を導き出していった。「自分の生き方は自分で決める！」即ちそれは「死＝自殺」を意味していた。彼は言う。「自分の生命は芸術活動と共に有り、今後肉体的機能が回復しない以上、自分は既に死んでいる。医学的に生を継続させるのは、個人から生死の選択の自由を奪う残酷以外の何ものでもない。」——悲痛な魂の叫びであった。だが別の立場にある人々もいた。彼らは最新の医療設備と器具をもってハリソンの心臓が、脳波が自然に停止しない限り、全力をあげてひたすらその「生」を継続させる事を使命とこころえ、かつ「死」を敵視する有能な医師達だった。立場の相異はそれぞれの主張を正当なものとして相容れず平行線をたどった。そしてハリソンは遂に「法」を介入させて権利を獲得しようとする…

人間の尊厳を求め、人間の基本的な在り方を訴えるケン・ハリソンの過酷な状況からの解放をめくつて、観る者に生きる事の意義を改めて見つめ直させてくれるこのドラマは、我々の心を熱い熱い感動と涙でとらえて離さない。今、ハリソンの叫びは、先に公開されたアメリカで強烈な衝撃の旋風を呼び起こし重大な社会問題となっているのである。

また、残酷なまでの言葉を投げかけながら、実はそこにハリソンを悲劇的な患者としてではなく、生身の人間同士として心の交流をみせる黒人雑役夫。決定を委ねられた判事の苦悩…主人公の理性の陽気さに時として笑いを誘いながら、ハリソンを取り巻く様々の立場の様々な人間のドラマは次第に緊迫感を盛り上げ、クライマックスの判決へと進んで行く。

出演は「グッバイガール」でアカデミー主演男優賞に輝いたリチャード・ドレイファスが、迫熱の名演技をみせる他、監督としても高い評価を受けている名優ジョン・カサベテス。

原作はブライアン・クラークが書いた舞台劇でロンドン、ニューヨークをはじめ、日本では劇団「四季」によって上演され、各国で大きな話題を呼んだことは記憶に新しい。「サタデー・ナイト・フィーバー」で一躍その演出力を注目されたジョン・バダムが監督にあたっている。

撮影は「マッカーサー」のマリオ・トッシ。100万ドルの見事な病院のセットを組み立てたのはジーン・キャラハン、音楽はアーサー・B・ルビンスタインと他のスタッフもベテランを揃えている。

3月春休みロードショー!

特別鑑賞券¥1,200
絶賛発売中!
(一般¥1,500
学生¥1,300の処)

丸の内ピカデリー

(201) 2881

新宿ピカデリー

(352) 1771

上映時間 連日 11:30 2:00 4:30 7:00